悪性黒色腫の大腸転移の1例

山口 敏紀¹ 吉田 成人¹ 蔭地 啓市¹ 今川 宏樹¹ 田中美和子¹
 宍戸 孝好¹ 福本 晃¹ 山田 博康³ 田中 信治¹ 茶山 一彰²

Fig. 1 Colonoscopic photograph showing a submucosal tumor with ulcers at its top in the descending colon

Fig. 2 Endosonographic photograph showing a homogeneous hypoechoic mass in the third and fourth layers

1. はじめに

悪性黒色腫は全身に転移を来す疾患であるが、生前に消化管への転移が診断されることは稀である。今回我々は悪性黒色腫の大腸転移巣の超音波像を経験したので報告する。

2. 症例報告

【症例】30歳代，男性。

【主訴】左大腿部の腫瘍および胸腹部の皮下腫瘍数個触知。

【既往歴】特記事項なし。

【現病歴】幼少時より左第5趾に爪甲大の黒色班があった。黒色班の中央部は徐々に退色し、10年前より爪にも黒色班が出現していた。2008年夏頃より左大腿部に違和感あり、徐々に腫瘍が触れるようになった。同年11月頃より胸腹部にも皮下腫瘍を触れるようになり、当院受診。診断目的に腹部の皮下腫瘍を摘出され悪性黒色腫と診断された。入院後、貧血の進行とPET-CTにて下行結腸に集積を認めたため、下部消化管内視鏡検査を施行。下行結腸に粘膜下腫瘍様病変を認め、精査目的に当科紹介となった。

【身体所見】身長179 cm，体重70 kg，左第5趾に

A case of a malignant melanoma metastasizing to the colon

Keywords: malignant melanoma, ultrasonography, colon metastasis

¹広島大学病院内視鏡診療科，²広島大学大学院分子病態制御内科学，³県立広島病院消化器内科

Toshiki YAMAGUCHI¹, Shigeto YOSHIDA¹, Keiichi ONJI¹, Hiroki IMAGAWA¹, Miwako TANAKA¹, Takayoshi SHISHIDO¹, Akira FUKUMOTO¹, Hiroyasu YAMADA, FJSUM³, Shinji TANAKA¹, Kazuaki CHAYAMA²

¹Department of Endoscopy, Hiroshima University Hospital, 1-2-3 Kasumi, Minami, Hiroshima 734-8551, Japan, ²Department of Medicine and Molecular Science, Division of Frontier Medical Science, Programs for Biomedical Research, Graduate School of Biomedical Sciences, 1-2-3 Kasumi, Minami, Hiroshima 734-8551, Japan, ³Department of Gastroenterology, Hiroshima Prefectural Hospital, 1-5-54 Ujina-Kanda, Minami, Hiroshima 734-8530, Japan

Received on July 1, 2009; Revision accepted on July 24, 2009

Fig. 3 Greyscale sonogram (7.5 MHz, linear) image showing a round hypoechoic mass in the descending colon

Fig. 4 Contrast-enhanced ultrasonographic image showing a metastatic mass which was enhanced with hyperperfusion. Small non enhancement area can be seen in the mass (arrow)

境界不明瞭な色素班あり，左大腿部に径約 15 cm 大の皮下腫瘍，他に右上腕，胸腹部にも径 2 - 3 cm 大の皮下腫瘍を数個認めた。

【血液検査所見】軽度の貧血と CRP, LDH の軽度上昇を認める以外，特記事項はなかった。

【下部消化管内視鏡検査】下行結腸に頂部に数個の潰瘍を伴う約 20 mm 大の粘膜下腫瘍様病変を認めた。黒色調を呈する部分は認めなかった (Fig. 1)。

【超音波内視鏡検査】12 MHz 細径超音波プローブにて観察を行った。減衰のため全体像の描出は困難であったが，第 3 層から第 4 層にかけて内部に比較的均一な低エコー腫瘍として描出された (Fig. 2)。

【腹部超音波検査】使用機種は東芝社製 SSA-770A で探触子は 3.75 MHz convex と 7.5 MHz linear 型

を使用した。病変は下行結腸に類円形の内部均一な低エコー腫瘍として描出された (Fig. 3)。超音波ドプラ法では内部に血流シグナルは認められなかった。超音波造影剤 Sonazoid® 0.015 ml/kg を one shot 静注し肝転移のスクリーニング目的に造影超音波検査を行い同時に腸管の腫瘍に対しても行った。なお，Sonazoid® は患者からのインフォームドコンセントを得てから使用した。腫瘍は周囲よりも hypervascular に造影され，内部に一部造影不良域を認めた (Fig. 4)。

【臨床経過】下行結腸の腫瘍は，下部消化管内視鏡検査時の生検組織より悪性黒色腫の大腸転移巣と判明した。また，心エコーにて癌性心膜炎，頸部 - 骨盤部 CT にて肺転移と腹腔内，後腹膜に多発転移を

認め悪性黒色腫 stage IV と診断, DAC-Tam 療法 (DTIC, ACNU, CDDP, tamoxifen) にて化学療法開始となった.

3. 考 察

悪性黒色腫はきわめて早期に発見されれば完全切除も可能だが, 発見が遅れば全身に転移を来す予後不良な疾患である. 転移の診断には, 従来, 理学的所見, 単純 X 線, CT, MRI, 超音波, 核医学検査などで診断が行われてきた. 近年, 形態検査と機能検査が組み合わせられた PET-CT による FDG-PET 検査が注目され, その有用性が多くの研究で証明されている¹⁾. 本症例も PET-CT を用いることで, 大腸転移が発見された.

皮膚原発の悪性黒色腫の消化管への転移の頻度は, 剖検例の検討では, 約半数に occult metastases が認められ, そのうち大腸転移例も 22% に認められる²⁾. しかし, 生前に診断される消化管転移に関しては, 消化管全体で 9% 以下³⁾, 大腸では 1% 以下であったとの報告もあり⁴⁾, きわめて稀である. 今回, その超音波像について報告したが, 同様の報告は今回我々が検索し得た範囲ではなかった.

本症例では第 2 世代超音波造影剤 Sonazoid[®]を用いた造影超音波検査を施行した. Sonazoid[®]造影超音波検査はリアルタイムに詳細な血流を得ることが出来るため, 我々は以前より消化管の血流評価にこの手法を用いている⁵⁾. 皮膚の悪性黒色腫の超音波

像は, 原発巣, 転移巣とも低エコーに描出され, 超音波ドプラ法では血流が豊富であることが知られている^{6,7)}. 本症例では深部減衰が強く超音波ドプラ法では血流は認められなかったが, 造影超音波検査を施行したところ豊富な血流が認められた. また, 内部に一部造影ムラが認められたが, 当院で診断目的に摘出された腹部の皮下腫瘍には内部に壊死を認めており, 大腸転移巣にも同様に壊死があることが予想された.

文 献

- 1) Reinhardt MJ, Joe AY, Jaeger U, et al. Diagnostic performance of whole body dual modality 18F-FDG PET/CT imaging for N- and M-staging of malignant melanoma: experience with 250 consecutive patients. *J Clin Oncol* 2006;24:1178-87.
- 2) Das Gupta TH, Brasfield RD. Metastatic melanoma of the gastrointestinal tract. *Arch Surg* 1964;88:969.
- 3) Vincent GM, Vincent HSL, Mary TK, et al. Malignant Melanoma Metastatic to the Gastrointestinal Tract. *AJR* 1996;166:809-13.
- 4) Blecker D, Abraham S, Furth EE, et al. Melanoma in the gastrointestinal tract. *Am J Gastroenterol* 1999;94:3427-33.
- 5) 神野大輔, 田中信治, 茶山一彰. 消化管腫瘍の診断造影を含めて. *Jpn J Med Ultrasonics* 2008;35(Suppl): 42.
- 6) 江田二葉, 清原祥夫, 鈴木正, ほか. 悪性黒色腫による超音波パワードプラ法の血流信号と腫瘍血管の免疫組織学的所見の関連についての検討. *日本皮膚科学会雑誌* 2008;118(2):191-203.
- 7) 永井秀之, 清原祥夫, 中島美智子, ほか. 皮膚腫瘍の超音波パワードプラ法による診断 - 特に悪性黒色腫の診断と鑑別について -. *日本皮膚科学会雑誌* 2001; 111:815-20.